

別記様式2

副 専 攻 プ ロ グ ラ ム 説 明 書

開設学部（学科）名〔教育学部（第二類）〕

プログラムの名称	(和文) 中等教育科学（理科）副専攻プログラム
	(英文) Secondary School Science Education
1. プログラムの紹介と概要 本プログラムは、中等理科教育の原理・内容・方法について、その概要を体系的に学習できるよう構成されており、中等理科教育に関する基礎的・基本的な知識を習得し理解を深め、幅広い知見を得ることができる。	
2. プログラムの到達目標 本プログラムは次のことの達成をめざす。 1) 中等理科教育に関する基礎的・基本的な理論を学習し、理解を深める。 2) 中等理科教授内容に関連した基礎的・基本的な知識を習得し、理解を深める。	
3. プログラムの履修時期・要件 (1) 履修開始時期とプログラム登録時期 プログラム開始（選択）時期は2年次である。 プログラムの登録は、履修開始前の登録（事前登録）のみとする。 (2) プログラム選択のための既修得要件(履修科目名及び単位数等) 既修得要件は特に定めない。 (3) 履修上の注意点 各「リテラシーⅡ」の履修にあたっては、それぞれの「リテラシーⅠ」の単位を修得していること。	
4. 教育内容・構造 (1) 教育内容 本プログラムでは、中等理科教育に関する基礎的・基本的な理論、中・高等学校理科の各科目に関わる自然科学の内容を学習する。 (2) プログラムの構造 第2学年では、専門必修科目のうち5科目10単位を履修する。 第3学年では、専門必修科目のうち1科目2単位および、専門選択科目4科目のうち2科目4単位以上を履修する。	
5. 授業科目及び授業内容 (1) 授業科目については別添の別表を参照すること。 (2) 授業内容については各年度に公開されるシラバスを参照すること。	
6. 評価 (1) 試験・成績評価 各授業科目における試験・成績評価基準に基づく。	

(2) 修了判定の基準

「5. 授業科目及び授業内容」に示す授業科目のうち、16単位を修得すること。

7. プログラムの責任体制

本プログラムは、教育学研究科自然システム教育学講座の教員により遂行される。その遂行上の責任は、プログラム責任者（講座主任）にある。計画・実施・評価検討・対処は、本プログラム教員会が行う。

8. プログラムの受入上限数

本プログラムの受入上限人数は約20名である。ただし教育学部生の履修を優先させ、授業により受講者数をおよそ50名以下に制限する場合がある。

9. プログラムの既修得単位等の認定単位数等

(1) 他大学等における既修得単位等の認定単位数等

広島大学における既修得単位と合わせて8単位を上限とする。

(2) 広島大学における既修得単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)の認定単位数等

他大学における既修得単位と合わせて8単位を上限とする。

【副専攻プログラム履修に関する注意事項】

○主専攻プログラムの授業時間割の関係で、登録した副専攻プログラムの授業科目履修が制限されることがある。

○副専攻プログラムで開設されている授業科目も、本学共通の平均評価点(GPA)の計算対象に含まれる。

別表

中等教育科学(理科)副専攻プログラム 履修表

科目区分	授業科目	開設 単 位 数	学期別週授業時 数 (履修期)						要 修 得 単 位 数	開 設 学 部	備 考
			3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ			
専門 科目 ・ 専門 必修 科目 ・ 専門 選択 科目	比較科学教育論	②		2					12	教育学部	
	理科教育評価論	②				2					
	力とエネルギーのリテラシー I	②		2							主専攻プログラムでは2セメ
	物質と反応のリテラシー I	②		2							主専攻プログラムでは2セメ
	生物とその多様性のリテラシー I	②		2							主専攻プログラムでは2セメ
	宇宙と地球のリテラシー I	②		2							主専攻プログラムでは2セメ
	力とエネルギーのリテラシー II	2			2				4	教育学部	主専攻プログラムでは3セメ
	物質と反応のリテラシー II	2			2						主専攻プログラムでは3セメ
	生物とその多様性のリテラシー II	2			2						主専攻プログラムでは3セメ
	宇宙と地球のリテラシー II	2			2						主専攻プログラムでは3セメ
合計								16			

〈履修上の注意〉

1. 開設単位数欄の○印は必修を表す。
2. 専門選択科目を履修するには、各分野の「リテラシー I」の単位を修得していることを条件とする。
3. 副専攻プログラム用の各「リテラシー」の科目は、主専攻プログラムと同時開講とする。